

株式会社HIRO産業

■事業

水処理分野の装置製作を通じ、
顧客への一貫サービス提供を目指す

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

形鋼バンドソー HK400、メカ式シャーリング DCT2065

需要高まる各種リサイクル機械の
設計から製造・修理まで一貫サービス

【経営理念】

常に成長を求める事
共に成長を喜べる事
お客様の笑顔を追求する事
社会の発展に寄与する事
未来への文化を創造する事
そして常に夢を持ち続け
愛される企業を実現します

社会的な環境意識の高まりや各種リサイクル法の施行などにより、廃棄物の再生利用率は年々向上している。ペットボトルや缶、家電など家庭から出される一般廃棄物だけでなく、さまざまな事業活動に伴って排出されるがれき類や金属くずなどの産業廃棄物の資源化も進捗(しんちょく)。持続可能な国際的開発目標(SDGs)では、「つくる責任 つかう責任」が12番目の目標に掲げられ、2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、リサイクルおよび再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減することなどがうたわれている。株式会社HIRO産業は2013年の創業以来、各種リサイクル機械の製造・修理などに注力。顧客のニーズに合わせ、設計から製造、設置、修理まで一貫してサービスを提供しており、現在は青森から沖縄まで全国各地の地方自治体や企業などから引き合いがある。中山博幸社長は「すべてオーダーメイドで、99%外注に頼らず納入まで行っているのが当社の強み。需要に供給が追いつかず、半分程度は受注をお断りしている状況です」と話す。

高精度、高速で切断できる機械導入し
廃水処理施設の受注が大幅アップ

近年注力している分野の一つが、鉱山から排出される廃水の処理。金属を多く含む有害な廃水から、亜鉛や鉄、銅などの重金属を取り除き、排水基準に適合する水処理を行うといったものだ。一般的な工場廃水と比べて廃水量が多いため、処理設備も大規模になり、収益も見込まれる。また、鉱山の廃水処理は、大手資源採掘会社や国の機関などが担うことが多いため、収入が安定しやすく、工期も長いことから、ターゲットに据えた。しかし、従来の設備は性能が低く、素材によっては切断できないものもあったため、外注に出さざるを得なかったり、加工できても精度が低かったりしたのが課題だった。そこで、補助事業によりメカ式シャーリングと形鋼バンドソーを導入。ほぼすべての素材を切断できるようになっ



中山博幸 代表取締役社長

☒ものづくり技術 ☐革新的サービス


1 同社が製造・設置したペットボトルリサイクルプラント
2 導入したメカ式シャーリング
3 導入した形鋼バンドソー



た上、切断面の精度や作業スピードも著しく向上。生産能力は約2倍に上がった。「優れた耐食性を持つステンレスを扱えるようになり、廃水処理施設の受注が伸びました」と中山社長。断らざるを得なかった受注を受けられるようになったほか、納期も大幅に短くなった。

新分野のリサイクルシステムも研究
先を見据えて事業拡大目指す

HIRO産業では、注力してきた廃水処理作業だけでなく、将来的に需要が高まりそうな新分野のリサイクルシステムの開発にも研究機関と共同で着手。そのほか、新素材開発を目指す国の研究チームにも参加したり、各種大手メーカーからオーダーメイド機械の製作依頼を受けたりするなど、数年、数十年先を見越した事業展開を行っている。「日常生活でも事業活動でも、ごみは必ず排出されるもの。これからの時代は、つくるだけでなく、処分方法も責任を持って考えていく必要があります。研究を積み重ね、当社にしかできない事業を広げていきたい」と中山社長は意気込みを語る。

■Company Data

株式会社HIRO産業



会社外観

代表者名：中山博幸
設立年：2013(平成25)年
資本金：5,000千円
従業員数：9名
主たる業種：金属製品製造業
本社：〒693-0032
出雲市下古志町23-2
電話：0853-27-9932
FAX：0853-27-9952